

東本宮

東本宮は、1970年に天岩戸神社の一部となりました。以前は、「氏神社」として知られていました。天照大神がここで祀られおり、天岩戸からお出ましになられてから、初めてお住まいになられた場所と信じられています。この場所にどのくらい前から、神社があったのかは確かではありませんが、武将、大神惟基が悪夢に恐れて、天照大神を深く崇敬し、812年に東本宮社殿を再興したと伝えられています。社殿は、戦国時代にたびたび焼失していて、その後1707年に再興されました。

天照大神がお隠れになったのを誘い出すために、舞をした天鈿女命の踊る像は、東本宮へ登る参道の麓近くに一つあります。

遥拝所/西本宮

東本宮は、天岩戸からお出ましになられた後の天照大神をお祀りしていますが、西本宮は、ご幼少の頃の天照大神を崇めています。この頃、天照大神は、オオヒルメノミコトとして知られていました。そしてオオヒルメノミコト自身ではなく、日本神話による、世界が暗闇に包まれた時、天照大神がお隠れになったとされる天岩戸をご神体としてお祀りしています。天岩戸は、神聖なものと考えられているため、直接拝むことはできませんが、神職さんのご案内により、川を挟んで正面にある天岩戸を遥拝所から参拝することができます。

遥拝所に入る前に、1969年に天然記念物に指定された大きな招霊の木と呼ばれるモクレン科の木を目にすることができます。天鈿女命が、天照大神を天岩戸から誘い出すために歌舞をした時に持っていたのが、この招霊の木の枝だといわれています。神道歌舞である神楽で使われる鈴は、秋に招霊の木になる赤い果実の形に由来すると考えられています。

西本宮の駐車場の近くに手力雄命の像があります。神話において、天照大神が天の岩屋戸から顔をのぞかせた時、手力雄命が岩戸を投げ飛ばし、それにより世界に明るさが戻りました。この像は、神楽の中でも見ることのできる手力雄命の偉業をも表しています。